

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2019

課題番号：18K12399

研究課題名(和文) 訓点資料本文データベース作成のためのシステム構築

研究課題名(英文) Construction of a system for a Kunten full-text database

研究代表者

蛭沼 芽衣 (HIRUNUMA, Mei)

九州大学・人文科学研究院・助教

研究者番号：20807177

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、訓点資料本文データベースを作成することを目的に、そのためのシステムを構築することを目指す。そのために(1)データ項目の選定(2)入力フォームの作成をおこなった。システムにはExcelのマクロを使用した。多くのパソコンで使えるからである。

入力データ項目には、訓点資料の特質や、これまでされてきた訓点資料の研究から、訓点資料の国語学的資料としての位置づけなどを考慮しながら入力データ項目を選定した。

次に、入力項目に対し、それらの入力の助けとなるようなフォームを作成した。一部を自動入力されるようにすることで、訓点と漢文についての基礎的な理解があれば、ある程度データ入力ができるよう工夫した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

訓点資料は、上代末から中古～中世前期にかけておこなわれた漢文訓読の成果である。後世の写本しかない和文資料とくらべ、加點時の原本が残っているため、当時のことばとしての信頼性が高い。資料の点数も膨大で、内容的にも、ヲコト点や仮名点による語彙、語法のみならず、声点から字音声調やアクセント、返り点などから統語構造、仮名点の字体から仮名字体の変遷などをも知ることもできる、実に情報量の多い資料群である。しかし、調査や解読が難しく、現在の日本語研究に於て、十分に活用されているとはいえない。本研究でのシステムを基に、訓点資料データベースが作成することができれば、新たな研究可能性が開けると予想される。

研究成果の概要(英文)：This research aims at system construction to create a Kunten Full-text database. So I chose an data items and created an input form. For the database, I use Excel, because it can be used on many computers. So I used macro function of Excel for input form.

Select Items：The data items were selected from characteristics of Kunten materials and the research on the Kunten materials that have been conducted so far, taking into account their significance as Japanese language studies.

Input Form: Since there are many inputs items, I created an input form to make it easier to input. I created a part that can be entered automatically and devised it so that data can be entered relatively easily.

研究分野：国語学

キーワード：訓点資料 データベース

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

訓点資料とは、漢文を訓読する際に付された「訓点(仮名点、ヲコト点)」をもつ資料群のことである。加点は上代末から始まり、中古～中世前期に盛んにおこなわれた。後世の写本でしか残存していない和文資料と違い、加点時の原本が残っているため、当時のことばとしての信頼性が高い。資料の点数も膨大で、いまだ未調査の資料も各所に眠っているものと思われる。

訓点資料は、ヲコト点や仮名点によって、語彙や語法が示されるのみならず、声点から字音声調やアクセントを、返り点などから統語構造を、仮名点の字体から仮名字体の変遷などをも知ることができる実情報量の多い資料群である。しかし、データ化はおろか、出版・公開されているものが少なく、利用しにくいのが現状である。そこで訓点資料に示される様々な情報を兼ね備えた訓点資料本文データベースを構築したいと考えた。

2. 研究の目的

訓点資料本文データベースを構築するにあたって、本研究では、まず、訓点資料本文データベースのためのシステムづくりを目指す。

訓点資料は上述のように、情報量が多い。入力を少しでも簡便にし、データ収集の効率化をはかる必要がある。また、多くの場合、入力事項が同じことがあるので、入力のシステム化が可能になると考えた。しかも訓点資料の解読には、ある程度の知識と経験を要する。入力方法のデザインを工夫することで、少し練習をした学生でも、データが扱えるようにしたい。

つまり

(1) 訓点資料を使用した日本語研究に資することのできるようなデータセットを有するデータベースであること。

(2) データベースの作成には、わかりやすく、システム化されているものを使えるようにすること。

が本研究で作成する予定のデータベースの目標である。

3. 研究の方法

上述のように、訓点資料は膨大な数眠っているが、解読には知識が必要となり、容易に扱える資料ではない。そのうえに、データ入力に専門的な知識が必要となれば、データベースの作成は困難となる。そこで、ある程度訓点資料の知識を持つ者なら、だれでもデータ収集ができるよう、Excelのマクロ機能を使用することにした。

以上を基に、本研究では、

(1) 入力データ項目の選定

(2) 入力システムの作成

をおこなった。

(1) 入力データ項目の選定

データベースの構築に際し、どのような情報を備えているべきかを選定する。訓点資料の特質や、これまでされてきた訓点資料の研究から、訓点資料の国語学的資料としての位置づけなどを考慮しながら入力データ項目を選定した。また、その時の入力情報のあり方も工夫した(研究成果(1)参照)。

さらに、大学院の演習授業において、院生に協力してもらい、実際にデータを作成しながら、フィードバックを返してもらった。演習の準備段階で、自分の担当範囲についてのデータを作成してもらいつつ、どの項目がどのような形式で示されるとわかりやすいか、どこが自動入力化されると便利かなど、多くの意見をもらうことで、項目の整理をしていった。

(2) 入力システムの作成

入力を簡便に行えるよう、ユーザーフォームを作成し、視覚的に操作しやすく、入力内容がわかりやすいものを目指した。

訓点資料は、現在知られているだけでも数千点にのぼるが、未調査のもの、存在が知られていないものを合わせれば何万点にもなると予想される。加分量は資料にもよるが、上記の入力項目の内容によって、入力に多くの時間を要するものもあると予想される。上述のように、「ある程度訓点を解せるものであれば誰でも」を目標に、感覚的に使えるようなデザインを考える必要がある。

これには、研究協力者を雇い、このシステムを使用しながら入力作業を行ってもらい、必要(不要)なシステムについての意見をだしてもらった。同時にプログラムのデバッグもしてもらい、不具合やフォームデザインについて改良を加えていった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|